

第1回三木市中小企業振興審議会議事録

- 1 日時・場所 平成25年5月31日(金) 午後6時から午後8時
市庁舎4階 特別会議室
- 2 出席者 <委員6名>
佐竹委員(会長)、鈴木委員(副会長)、鶴目委員、井澤委員、
牧委員、吉見委員
<市側>
藪本市長
<事務局7名>
北井副市長、永尾産業環境部長、藤原商工課長、住野観光振興課長
清水農業振興課長、成瀬商工課主査、小山商工課主査
- 3 欠席者 浅野委員
- 4 会議の公開、
非公開の別 公開
- 5 傍聴人の数 2人
- 6 開 会
- 7 委嘱状交付 市長より各委員に委嘱状を交付
- 8 市長挨拶 藪本市長 挨拶
- 9 委員紹介 各委員が自己紹介
- 10 正・副会長選出 佐竹委員を会長に、鈴木委員を副会長に選出したい旨、事務局案を示し、全員賛同を得た。
- 11 諮 問 藪本市長が、佐竹会長に「三木市中小企業の振興策について」の諮問書を手渡した。
- 12 議 事

会長	藪本市長より、「三木市中小企業の振興策」について諮問を受けました。 振興条例に基づいて三木市の中小企業を中心に地域活性化に繋がる
----	---

事務局	<p>ような振興策を議論して政策に反映させようという趣旨でこの審議会をスタートさせていただきます。</p> <p>7名の委員の皆様には、当審議会を進める中で、政策提言をしていただくこととなります。</p> <p>それでは、次第に従いまして進めます。</p> <p>事務局より、三木市産業の現状と課題について説明してください。</p> <p>配布資料1、2、3に基づき説明</p>
会長	<p>それでは、少人数ということもありましてすべての委員の皆様からご意見を頂戴したいと思います。</p>
委員	<p>卸売業・小売業のグラフについて平成19年度以降の状況はどうなっていますか。</p>
事務局	<p>基本的には変わっていませんが、事業所は減少傾向です。</p>
会長	<p>失われた20年、デフレで悪かった。バブル崩壊後、1998年の不況を底打ちに2000年代に盛り返しましたが、リーマンショック、東日本大震災で落ち込みました。2000年代のいざなぎ景気は、大企業型・都市型なので、三木市はあまり関係がなかったようです。</p>
事務局	<p>三木市の人口は約8万人で、年間500人減少しています。出生率は1.12と低く、結婚率も低い状況が続いているため、子ども達が少ない、労働人口が増えていません。また、高齢化率は、現在の27%から10年後には37%に上昇すると予想されます。これら人口的な要素は負の要因しかありません。</p> <p>特に問題なのは、後継者がいないことです。産業形態が似ているが新潟県三条市は、小規模企業が淘汰され、大きな企業になって競争力がアップしています。三木市の場合は、あまり淘汰されることがなかった反面、後継者難に陥っています。特に卸売業では顕著です。</p> <p>その中で、地場産業を守り中小企業を活性化していけるのかが、三木市の大きな課題です。お互いの技術を守る思いが強いあまり企業間同士の協力体制がとれない。そのような中で、何か思い切った手を打つことが必要であると考えています。</p>
会長	<p>地場産業で横並びになってしまうと、企業としての競争力がなくなるという発想はもちろんその通りですが、産地そのものがなくなってしまうとどうにもなりません。近隣市町では、加東市の釣針の技術は完全に秘密となっているので、技術の継承ができていません。まだ三木市の場合はそこまでいっていないようだが近いようです。</p> <p>総論的な話ですが、人口減少局面で、経済成長を果たした国や地域</p>

	<p>は基本的にありません。生産労働人口が高付加価値製品を作って高く売り消費者が購入することで経済が成長するわけですが、買い手がいなければ経済は成長しないわけですから、人口減少局面並びに少子高齢化では成長しません。三木市のみならず日本全体がそういう局面の中で、どんなことをやっていけばいいのか。何かご意見等がございましたらよろしくお願いします。</p>
委員	<p>卸売業、小売業のデータが平成19年までとなっていますが、最近の傾向はいかがですか。</p>
会長	<p>平成19年ということは、リーマンショック前なので、現在はもう少し悪くなっているかもしれません。</p>
委員	<p>人口は全国的なものですが、特に三木市は減っているように思います。そのひとつの要因として、医療費があるのでは。この近隣では加西市、小野市が中学生まで医療費無料となっていますが、三木市はどうですか。</p>
事務局	<p>人口は、小野市は横ばいか若干増で、加東市以外は、減少しています。その中でも西脇市、加西市は減少幅が大きいです。 医療費の補助については、県内で上位は、西宮市、小野市、三木市の順となっています。</p>
会長	<p>三木市が神戸のベッドタウンとしての役割があるのに人口が減っているのはイメージに合わないところがありますね。</p>
事務局	<p>三木市の人口が急増したのは、昭和50年前後からで、神戸電鉄沿線の緑が丘、自由が丘が造成され、特に緑が丘は三田市同様全国的にも1位を争うくらい急増して人口が4万人から8万人になりました。そのほとんどが団塊世代の方々に、現在、退職されているので労働者人口が急激に減少し、若い方は都市部へ流出するので高齢者だけが取り残された状態になっています。</p>
会長	<p>多摩ニュータウンと同じ現象ですね。</p>
副会長	<p>加東市が増えている理由はなんですか。</p>
事務局	<p>加東市は、北播磨の中心で、パナソニック、富士通等が工業団地に立地しています。また、地理的にも神戸や姫路方面に行くことができ、行政機能が集中している利点があります。</p>
会長	<p>北播磨県民局など行政機能が集中しており、高速道路も市の中心に</p>

	<p>通っているので大企業を誘致しやすく現在も残っています。また、人口だけでなく出荷額が安定しています。</p>
委員	<p>資料を見ると、三木金物は円高の影響を受けているという話ですが、輸出割合が全体の約8%なので関係ないではありませんか。</p>
事務局	<p>輸出先が欧州、米国などに集中しているので影響があるのではないかと思います。</p>
委員	<p>欧州などに集中している理由はなんですか。</p>
会長	<p>いま三木金物もブランド化しておりまして、単なる量産品は中国に負けますが、高級金物を欧州などの見本市に出展して市場を広げようとしています。</p>
事務局	<p>鍛造技術は、三木の金物の生命線です。輸出後1ヶ月でコピー商品が出回るような中国では製造も出来ないし輸出も出来ない。やはり何かに特化した商品売っていくということで、欧州、米国などへ輸出しています。</p>
委員	<p>鍛造技術は盗まれるのですか。</p>
事務局	<p>中国で製造すれば盗まれます。</p>
会長	<p>鍛造技術でも単純に真似できるものは低価格品です。高級品は基本的には技術は盗まれません。その限られた技術を工業組合の中で勉強しながら増やし、市場開拓しようとしています。</p>
事務局	<p>昔は、販売面でメーカーが卸業者にお世話になるしかなかったのですが、市場の変化で、メーカー直販できるような時代になりました。また、若手経営者の意識も変わってきています。</p>
会長	<p>海外に売りこもうとしているのは、30～40代の経営者が非常に多く、従業者規模3人ぐらいのところもありますが、今後、期待できることだと思います。西脇市は典型的ですが、問屋を通さないと播州織はいつさい販売できなかったが、現在それも変わりつつあります。</p>
事務局	<p>時代の流れに応じた対応を図っていかなければなりません。</p>
委員	<p>事務局で提示されているSWOT分析をもっと掘り下げてみれば良いと思います。</p>

<p>会長</p>	<p>基本的には皆様方からご提言いただいたご意見等で、SWOT分析を加筆・修正すればいいと考えています。例えば、TPPは脅威ということもあるが、機会にも入るといような加筆・修正をしながら政策提言に結び付けていければと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>この提示されているSWOT分析以外にも、もっとあるのではないかと思います。そうすれば、戦略が見えてくるのではないかと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>平成22年の経済成長率4.9%の原因は何ですか。</p>
<p>事務局</p>	<p>これはリーマンショック後の回復期として、輸出と内需回復による生産活動の下支えがあったことが原因であると考えます。</p>
<p>委員</p>	<p>SWOT分析の伝統技術の継承について、人は減り後継者がいない、技術の囲い込みがあります。これまでの取組はどうなっていますか。</p>
<p>事務局</p>	<p>三木の金物は国の伝統的工芸品に指定されていますが、伝統工芸士は高齢化しており技術の継承がうまく出来ていません。工業組合の方では、伝統工芸士の方を講師として後継者育成を行っています。また三木市では、技術を引きつごうと考え弟子入りした人には補助をしていますが、なかなか見込み通りにはいっていません。</p>
<p>会長</p>	<p>若い方が動こうとしているのは事実です。30～40代の方で30社くらいが集まり勉強会をしています。</p>
<p>事務局</p>	<p>日本国内で唯一の日本剃刀の技術者がいたが、市でもいろいろ支援したが後継者ができませんでした。ただ、備前の刀鍛冶技術の場合は、直系は残っていないが、全国から応募してその技術が残ったような事例もあります。いま三木市は、後継者育成などの支援をしているし、若手の方々も頑張っていますので、これにも支援できればと考えています。</p>
<p>会長</p>	<p>私が参加している組合で、キャリアプランを提示してはどうですかと提案しています。修行中は、時給500円でローソンへバイトに行ったら1000円もらえるが、ずっと変わらない。40歳になればあきらかに差が出てくる。最近ではベンチャー的な部分の中でいくらでも海外で売り込むことも可能です。ただ、うまくいくかどうかわかりませんが検討する必要があります。</p>
<p>副会長</p>	<p>その技術が20年後に残る技術でないと困ります。すべての技術の継承を一律に援助するわけにはいかないと考えています。</p>

会長	<p>特殊な事例ですが、DTP写真がデジカメの革命的な技術の出現でなくなるとは誰も予想しませんでした。刃物の場合は、なくならないと思いますが、こればかりはわかりません。</p>
副会長	<p>基本的なことですが、三木の金物産業と言った場合は、比較的高度な技術が必要な刃物ですが、卸商は刃物の卸ですか。</p>
会長	<p>基本的には刃物です。ただ刃物でも料理に使う包丁から農機具、工事用の機具などいろいろな用途の刃物があります。</p>
事務局	<p>三木の伝統工芸品は大工道具がメインです。鋸(のこ)、鑿(のみ)、鉋(かんな)、鰻(こて)、小刀の5品目です。この中でも一番特殊なのは鰻(こて)で、全国でも9割以上が三木市で作られています。そのほかには、農機具系の丸鋸やチップソーなど鋸系や電動工具や木工・金属・コンクリート用ドリルなど先端工具があります。</p> <p>包丁系は弱く、包丁は堺市、関市、武生です。三条市は三木と同じく利器工匠具となっています。</p> <p>特徴として三木市は単品での産地ではなく大工道具なり刃物なり、たくさんの種類があるということです。</p>
副会長	<p>刀鍛冶のような徒弟制度のような技能継承でない技術で勝負しているところはたくさんあると思うが、そういうことも取り入れてみれば仕方が変わるのかもしれない。</p>
会長	<p>日本刀なんかではなく、あくまでも実用品ですから少し違うと思います。</p>
委員	<p>いま言われているものは、高いクラスのを扱っているということですか。</p>
事務局	<p>いろいろあると思いますが、家庭用ではなくプロ用です。</p>
会長	<p>低価格品では確実に負けるので、家庭用のように大量に作って売る時代ではないという認識はあります。そういう意味ではTPPには強いと思います。経済産業省のジャパンプランドにも申請し活動途上です。危機感を持っている30～40代の若者は起爆剤になります。それを市として、どう受け止めて施策に反映していくのかというのがこの審議会のひとつのテーマだと思います。</p>
副会長	<p>農業について、作物はどうなっているのか。</p>
事務局	<p>水稻が主で、いちご・ぶどうは、若い人の農業者が増えています。</p>

会長	農業の問題については、農地転用ができないので、ある程度、現状維持しなければ仕方がないと思います。ただ、強い農業はTPPでも残るでしょう。
委員	SWOT分析の強み・弱みなどを聞いておきますと、ぶどうや金物の技術があるということで、三木市から転出された方の子ども達が体験できるようなぶどう狩りや金物を使った工作教室などの学習プランに力を入れてPRしてみてもいいと思います。
委員	ゴルフ場がたくさんあるので、お金を落としているような仕組みになっているのが大事です。ゴルフ場がたくさんあっても通過されるだけでは意味がありません。
事務局	ゴルフに行っても、お土産を買う程度だと思います。
会長	だから、道の駅の業績が高い。朝来市は、竹田城を活かしてやっとお金を落とすようになりました。
事務局	道の駅みきは、入込客数は多いがそのほとんどがトイレに使用するのみです。 ゴルフ客などの観光客からどのようにして、お金を落とすかというところが課題です。
会長	いまグランフロント大阪が盛況です。もちろん梅田にあるからですが、人が滞留する方法には、回遊性、地域のテーマパーク性、コミュニティ性が必要です。だからといって、テーマパークを作っても失敗します。吹田のエキスポランド跡がアウトレットに変わるようです。交通の便がよければ外国人観光客に来てもらうことも可能でしょう。 それでは、次に、今後のスケジュールについて説明願います。
事務局	配布資料4で説明
会長	次回の審議会のスケジュールですが、第2回を6月19日、第3回を6月27日に開催します。